

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)	
<p>【教育目標】 「ふるさとを愛し、夢と希望をもって探究し続け、未来を切り拓く子どもの育成」</p> <p>【目指す子ども像】 ・自分と向き合う子ども ・自分を高める子ども ・他者とつながる子ども</p>		<p>○網野学園としての「未来を拓く学校づくり」に関わる研究と連携した校内研修を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育てる研究・実践を進めることができた。</p> <p>○発達支持的生徒指導と心理的安全性を高める指導を大切にした学級経営を進めることができた。</p> <p>○人権教育と共に理解教育を行うことで、全ての児童にとって安心・安全な学校の環境づくりができた。</p> <p>○地域と関連させた学習に取り組み、人との関わりを通して豊かな心の育成を図ることができた。</p> <p>△非認知能力の向上により、学力（認知能力）の向上が成果として表れるよう授業改善を図る必要がある。</p> <p>△自己調整能力の向上を目指し、児童主体の活動を充実させる。</p> <p>△主体的な態度につながるよう、自己肯定感を高める指導を行う。</p>		<p>【教育活動の目標】 「他者をつながり、最後までやりぬく たちっ子」の育成</p> <p>【教育活動の具現化に向けて】 た：たちばなを好きになる ・安心して自己表現できる学校を、みんなでつくる。 ち：知恵を磨く ・自己の成長を喜び、主体的に学ぶ力をつける。 ば：場を大切にする。 ・豊かな人間関係を築く力をつける。 な：何事もやりぬく。 ・粘り強くゴールを目指す力をつける。 「探究的な学びの推進」「自立に向けた支援の見極め」 「働き方改革の推進」</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価	
学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	<p>1 探究的な学び（主体的・対話的で深い学び）の実現に向けて授業改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科を重点とした研究を組織的に進める。特に課題解決型の探究的な授業づくりを進める。 単元構想シートやギミックブラッシュアップシートを活用した授業を行い、認知能力と非認知能力を一体的に育む。 <p>2 学力向上の取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの利活用により、個別最適な学びを進める。 小規模校の良さを生かし支援を組織的に行う。 	<p>○網野学園授業研究会と、校内授業研究会を通して、探究的な学び（主体的・対話的で深い学び）の実現に向けた授業改善について、ICTを利活用しながら、「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の授業スタイルを基本にした実践的な研究を進めることができた。</p> <p>△ギミックブラッシュアップシートの内容をさらに充実させ、非認知能力とともに認知能力（特に思考力）を高める指導について、研究を進めていく必要がある。</p> <p>※ICTの利活用については、次ページ「情報活用能力」参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、マラソン大会、学習発表会を参観させて頂き、それぞれの児童が主体的に行動したり自分なりに自信をもって取り組んだりする様子が見られた。 社会に出ていく子ども達には非認知能力の育成が大切になってくるので、認知能力と共に、今後も非認知能力の育成を大切にしてほしい。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間関係を築く力を育てる。 ○校内組織の連携を密にし、児童のより良い人間関係づくりを支援する。 ○いじめや不登校の未然防止に努める。 	<p>1 豊かな人間性を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業や人権学習の充実を図ることで豊かな人間性の基礎を培う。 地域等、多様な人との関わりを通じた学習から豊かな人間性の素地を養う。 <p>2 認め合える集団づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの信頼関係や安心できる居場所づくりを基盤に学級や異年齢集団等多様な集団での活動を通して豊かな関わりを経験させる。 <p>3 教育相談部、生徒指導部等の連携と機能化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個と集団の丁寧なアセスメントと支援により、いじめの防止や不登校の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達支持的生徒指導と心理的安全性を高める指導を大切にした学級経営を進めることができた。 ○生活科・総合的な学習の時間等における地域学習の中で、多様な人との関わりを通して豊かな心の育成を図ることができた。 ○個々の思いを表現する場や個々に応じた活躍の場大切にする事で、児童にとって学級や学校が安心できる居場所になっている。 ○学級活動や異年齢活動における目的や目標を明確にしながら取り組ませるとともに、振り返りを大切にする事で豊かな人間関係の構築を図ることができた。 △児童の内面理解を図りつつ丁寧なアセスメントと個に応じた支援を充実させ、自己肯定感を高められるような指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習の中で、地域で働く人々とのふれあいを通して、豊かな心の育成を図ることができたことに共感している。今後も、様々な人との触れ合いの中で、人と関われる、相手の気持ち分かる、思いやりのある子どもの育成を図ってほしい。

学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	健康・安全	○心身の健康に対し、目的意識をもち、粘り強く取り組む児童を育てる。 ○自らの目標をもち、意欲的に運動に取り組む児童を育てる。	1 目的意識をもち、粘り強く取り組む力を育てる。 ・取組の目的を児童と共有したり、自己の目標を明確にもたせたりしながら、生活リズムを整える取組を進める。また、生活習慣等に課題のある児童や家庭に対して丁寧な支援を行う。 ・体力づくりの取組を通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。 2 自らの目標をもち、意欲的に運動に取り組む力を育てる。 ・挑戦できる場や、肯定的な評価を大切にしたい取組を進める。 ・振り返りの場を大切に、主体的な姿を価値付けることで次への意欲を高める。 ・ICTを活用した体育的活動を通して、楽しみながら運動ができるよう指導する。	○自らの生活を振り返り自分で目標設定をして生活点検に取り組むことで、受け身ではなく、主体的に自己の生活リズムを見直す機会となった。 ○マラソン大会に向けて、体育の授業や朝マラソンの取組を通して粘り強く取り組む力を付けることができた。 ○異年齢集団活動（春の運動会・大縄大会）の取組では「何のためにするのか」「どのような姿を目指したいのか」を児童と共有するとともに、振り返りや評価を大切にすることで、向上心や自己肯定感、他者と協働する意識が高まった。 △基本的な生活習慣の確立に課題の見られる児童に対して、家庭と丁寧な連携を図り、改善へ向けた具体的な手立てや支援を講じる必要がある。	・目的意識をもって生活リズムを見直す機会になった事は良いことである。 ・家庭との連携を図り、改善に向けた支援を今後もして頂きたい。 ・一人一人が「何のためにするのか」「どのような姿を目指したいのか」という事を教師と共有しながら振り返りや評価を大切にされる事に共感している。 ・高学年児童の低学年児童への思いやある関りが本当に素晴らしい。
	情報活用能力（ICT活用）	○ICTを活用した個別最適な学習や協働的な学習により、情報活用能力と共に、課題解決能力を育てる。	1 ICTの効果的な活用 ・ICTの活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を工夫し、学力とICT活用能力の向上を目指す。 ・授業の中でICTを利活用することで、個別最適な学習や協働的な学習を充実させ、基礎基本の学力定着とともに、課題解決能力を育成する。 ・授業と関連付けた家庭学習にICTを利活用することで、家庭学習の充実を図るとともに、ICT活用能力の向上につなげる。	○定期的なミニ研修会を実施し個別最適な学習や協働的な学習におけるICTの有効活用について学び教員のスキルアップを図ることができた。 ○データの共有をしたり、他者参照をしながら協働的に研修したりするなど、校務でクラウド利用の場を広げることで、研修の充実、効率化を図ることができた。 △家庭学習の充実に向けて、授業と関連付けた家庭学習でのICTの利活用について研修を進める必要がある。	・家庭学習の充実に向けICTの利用について研修を進めてほしい。 ・ICTの利用で、すぐに情報が共有できたり、協働的な学習ができたりすることが素晴らしい。 ・ICTの利用で個別の学力定着を図って頂きたい。
	特別支援教育	○個に応じた指導と、理解教育を進め、児童が安心して学習できる学校づくりを進める。	1 個に応じた指導 ・特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育指導員と連携しながら、個に応じた効果的な指導を組織的に進める。 2 児童が安心して学習できる学校づくり ・全校的な理解教育を充実させ、どの児童も安心して学習できる環境づくりを進める。	○個々のアセスメントを丁寧に行い、必要な支援と自立のための活動を組織的に検討し指導につなげることで安心して学校生活を送ることができた。 ○特別支援教育指導員を活用し、個に応じた学習を行うことで基礎学力の積み上げが図れた。 ○人権教育とも合わせて理解教育を進め一人一人の児童が大切にされる学校の環境づくりを進めた。	・一人一人に必要な支援と自立に向けた支援を組織的に検討し指導につなげたことで学校生活を安心して起きることが出来ていることは良いことである。
次年度に向けた改善の方向性	・心理的安全性の確保、学びに向かう力を基盤に、さらに探究的な学び（主体的・対話的で深い学び）の実現に向けた授業改善を進め、非認知能力とともに認知能力（特に思考力）を高める指導について研究を深めていく。また、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導の充実を図る。 ・今後も保護者地域との連携を図り、地域を知り、地域の良さを生かした探究的な学びを進め、子どもたちの知的好奇心や思考力をつけていく。 ・児童の内面理解を図りつつ、丁寧なアセスメントと個に応じた支援を充実させ、自己肯定感をさらに高められるよう指導を継続する。			・保護者・地域との連携を図って頂き、地域の良さを知り子どもたちの知的好奇心や思考力を付けていってもらいたい。	